



舞鶴湾などの魚をスライドで紹介する  
益田助手(舞鶴市中総合会館)

## 海中散歩、スライドで紹介 舞鶴

水産実験所の益田助手 魚のドラマ語る

舞鶴湾を中心に水生生物の調査、研究に取り組む舞鶴市長浜、京都大舞鶴水産実験所の益田玲爾助手(㊦)が二十日、余部下の市中総合会館で「舞鶴湾水中散歩」をテーマに講演した。会場いっぱい詰めた市民らは、身近な魚たちが繰り広げる意外なドラマに聞き入った。

環境問題などを考える市民団体「環境！みる・きく・考える会」(山内茂樹会長)が主催した。

益田助手は月に二回、

耐水用紙と水中カメラを手に舞鶴湾で調査しているといい、講演では、スライド写真を使ってメバルやハゼ、タツノオトシゴの生態や特徴を紹介。「魚はなぜ群をつくるのか」をテーマに話を進め、さまざまな実験、観察の結果から「敵から身を守るため」、「エサを取りやすくするため」などの仮説を挙げた。

また、DHA(ドコサヘキサエン酸)が重要な役割を果たすといい、「魚なりに頭がよくないと群れを作れない」と話し